

# 若年層における特定異性間の暴力（dating violence）に関する研究

—大学生を対象とした dating violence に関する意識・実態について—

松野 真\*・秋山 胖\*\*

## A Study of Dating Violence among Youth Age: Consciousness and Reality of Dating Violence among College Students.

Makoto MATSUNO, Yutaka AKIYAMA

### 1 目的

日本では、配偶者（事実婚を含む）からの暴力の防止と被害者の保護を目的として、2001年に「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」（以下DV防止法）が制定され、本格的にDV被害者に対する支援が開始された。

配偶者間の暴力（ドメスティック・バイオレンス：以下DV）とともに、婚姻関係を前提としない、親密な関係にある若者間の暴力の存在が指摘されている。（小西 2001, 山口 2003）小西 (2001) は、親密な関係にある若者間の暴力をパートナー・アブ्यूズと位置付けて具体的な事例を述べており、その中で、親密な関係にある若者間の暴力の被害者とDV被害者の心理状態は、非常に似ていることを指摘している。また、畑下ら (2005) は、Anderson ET (2001) らによると、配偶者間の暴力の兆候は、結婚する前の付き合いからみられたことを報告し、さらには、親密な関係にある若者間の暴力とDVを比較した時、家族としての結びつきの有無や経済的な結びつきの有無、法的な結びつきの有無等は構造的な要因の違いであり、そのことが両者の根本的な相違とは考え難いとしている。

国内では、山口 (2003) が、親密な関係にある若者間の暴力を「デートDV」として取り上げたことにより、現在、親密な関係にある若者間の暴力については「デートDV」と表記し、認知され始めている。海外では上記のような暴力を「dating violence」として表記することが多いため、本研究においては、以下、「dating violence」と表記する。

dating violenceに関する海外の研究動向については、畑下ら (2005) は、大学生を対象とした dating violenceの実態やその要因に関する海外の研究を「dating violence」もしくは「date violence」

\* まつの まこと 千葉県男女共同参画課

\*\* あきやま ゆたか 文教大学人間学部人間科学科

という用語を用いて文献検索を行い、その結果についてレビューした。レビューの結果、対象となった文献が1990年から見られたことから、海外においては、1990年代に入り dating violence への関心が高まってきたとしている。

山口（2003）は、学校現場などで見られる具体的な事例を挙げながら、日本においても dating violence が存在することを指摘し、若年層に対する DV 予防教育の必要性について唱えている。近年、国や地方公共団体等の DV 施策の中に、高校生等の若年層を対象にした DV 予防教育が位置付けられつつあり、そのような流れの中で、日本における dating violence の実態に関する調査も行われ始めている。国や地方公共団体では、内閣府（2006）が20歳以上の男女2,880人を対象に実施した「男女間の暴力に関する調査」の中で、交際相手からの暴力の被害経験について調査した。また、熊本県（2008）では、20歳代の男女2,500人を対象に調査し、dating violence に関する意識や実態を把握することを通して、予防教育の啓発資料の作成を試みている。横浜市（2008）は、高校生と大学生922人に対して DV 予防啓発プログラムを実施後、DV や dating violence に関する意識と実態調査を実施した。なお、同調査では、横浜市内の教職員497人に対しても、併せて同様の調査を実施している。また、神戸市（2008）においても、県内の高校生2,697人を対象に dating violence に関する意識と実態調査を実施した。研究者では、李ら（2005）が、大学生595人を対象に、DV となりうる行為を取上げ、その実態調査を行っている。

このように、国内における dating violence に関する調査研究は、まだまだ始まった段階にあり、dating violence の存在自体は確認されたが、その実態については明らかになっていない。

本研究では、大学1年生を対象に、DV や dating violence となりうる行動について取り上げ、質問紙により調査を実施することで、DV や dating violence に関する意識や実態について調査し検討することを目的とする。

## 2 方法

### (1) 調査の質問紙について

本調査で作成した質問紙は、「特定異性間における関係性の意識と実態調査」として実施した。質問紙は、主として①これまで小・中・高校・大学において付き合った特定の異性の人数、② DV に関する知識の有無と知るに至ったきっかけ（複数回答可）、③40行為に対する暴力観（「完全に暴力である」から「全く暴力でない」の5段階評価）、④40行為を行った（行うと推測する）頻度（「毎日のようにする」から「全くしない」の5段階評価）、⑤行為を受けた（受けると推測される）頻度（「毎日のようにされる」から「全くされない」の5段階評価）、⑥恋人関係や他の対人関係に関する考え方（「非常にそう思う」から「全くそう思わない」の5段階評価）、⑦相談機関の周知の有無、をA3用紙見開き裏表1ページに納まるように作成した。

本研究で取り上げた40行為は、内閣府「配偶者からの暴力に関する調査」（2003）で用いられた調査項目や、東京都『女性に対する暴力』調査報告書（1998）や山口（2003）が示した暴力のタイプ、NPO 法人 DV 防止ながさき（2005）が高校生・大学生を対象として実施したアンケート調査、著者の DV 被害者支援の経験から、DV および dating violence の行為の中核的性質を示すと思われる「相手を思い通りにしようとする、手段となりうる行動」として特に注目に値するものを抽出し選出した。さらにこの40行為は、「身体的行為」（No.1～No.10）、「精神的行為」（No.11～No.33）、「経済的行為」（No.34～No.37）、「性的行為」（No.38～No.40）の4区分に分類される

ものとした。なお、40行為を行った（あるいは、仮定として行うと推測する）頻度、40行為を受けた（あるいは、仮定として受けると推測する）頻度について評価を求める際に、これまで全く異性と付き合ったことのない調査対象者には、「今後の可能性」として評価させる旨を表記し、また教示した。

DVに関する事項の認識とそれを知るに至ったきっかけについての項目は、著者がDV被害者支援または予防教育を進めていく中で、重要と思われる用語を取り上げた。また、異性や他者との関係に対する考え方については、恋人観・対人観として考えられる態度や意識を独自に20項目作成した。

## (2) 対象者

X大学の2007年度1年生146名（男性65名、女性78名、未記入3名 平均年齢18.3歳）を調査対象とし、性別未記入の3名を除いた143名を分析対象者とした。

## (3) 実施時期

調査は2007年4月に3回に分けて実施した。

## (4) 手続き

質問紙は、年度当初の初回授業終了時に実施し、配布後、その場で記入・回収した。なお、質問紙を実施後、調査対象者には、「ドメスティック・バイオレンスとは何か」、「DV問題の重要性」、「配偶者からの暴力の実態」、「相談機関などDVに関する情報」をまとめた資料を作成し、「調査を受けてくださった皆様へ」として配付した。

# 3 結果

## (1) これまでの異性との交際状況

これまで中高校・大学を通して、特定の異性との付き合いの有無を表1に示した。また、各学校別に特定の異性との付き合いの有無を表2に示した。

表1 これまでの特定異性との付き合いの有無

異性との付き合い	男性（人）	女性（人）	計
経験有り	46 (70.8)	58 (74.4)	104 (72.7)
経験無し	15 (23.1)	19 (24.4)	34 (23.8)
未記入	4 (6.1)	1 (1.2)	5 (3.5)
計	65	78	143

表2 学校別に見た特定異性との付き合いの有無

	付き合い無し		付き合い有り		未記入 人数（人）
	人数（人）	内訳（人）	人数（人）	内訳（人）	
小学校	125 (87.4)	男性 55 (44.0)	12 (8.4)	男性 5 (41.7)	6 (4.2)
		女性 70 (56.0)		女性 7 (58.3)	
中学校	63 (44.1)	男性 28 (44.4)	75 (52.4)	男性 33 (44.0)	5 (3.5)
		女性 35 (55.6)		女性 42 (56.0)	
高校	55 (38.5)	男性 21 (38.2)	83 (58.0)	男性 40 (48.2)	5 (3.5)
		女性 34 (61.8)		女性 43 (51.8)	
大学	117 (81.8)	男性 50 (42.7)	20 (14.0)	男性 10 (50.0)	6 (4.2)
		女性 67 (57.3)		女性 10 (50.0)	

小・中・高校のいずれかで、特定の異性と付き合った経験がある対象者は104名（72.7%、男46、女58）であった。小学校時代に特定の異性と付き合った経験のある対象者は、12名（8.4%、男5、女7）であった。また、中学校時代では、75名（52.4%、男33、女42）であり、高校時代では、83名（58.0%、男40、女43）であった。調査時が大学1年生の当初ということもあり、大学時代に特定の異性と付き合った経験のある対象者は、20名（14.0%、男10、女10）であった。

### (2) DVに関する事項の認識度

DVに関する事項の認識とそれを知るに至ったきっかけを表3に示した。

「DV」については、「雑誌やテレビ等でみた程度」が65名（45.5%）と一番多く、次に「学校の生活指導などで聞いた」が、48名（33.6%）であった。「デートDV」については、「全く聞いたことがない」が116名（81.1%）で一番多く、次に「雑誌やテレビ等でみた程度」が15名（10.5%）であった。「DV防止法」については、「全く聞いたことがない」が、69名（48.3%）で一番多く、ついで「雑誌やテレビ等でみた程度」が42名（29.4%）であった。「DVシェルター」「DVサバイバー」については、「全く聞いたことがない」が一番多く、「DVシェルター」が117名（81.8%）、「DVサバイバー」が、131名（91.6%）であった。

表3 DVに関する事項の認識と知るに至ったきっかけ

用語	1聞いたことがない	2雑誌やテレビで見た程度	3身近な人の体験談から	4学校の生活指導等で聞いた	5関心があり自分で調べた	2と4の複数回等	未記入
DV(ドメスティック・バイオレンス)	12(8.4)	65(45.5)	7(4.9)	48(33.6)	3(2.1)	1(0.7)	7(4.9)
デートDV	116(81.1)	15(10.5)	2(1.4)	3(2.1)	0(0)	0(0)	7(4.9)
DV防止法	69(48.3)	42(29.4)	3(2.1)	20(14.0)	1(0.7)	1(0.7)	7(4.9)
DVシェルター	117(81.8)	9(6.3)	0(0)	8(5.6)	1(0.7)	1(0.7)	7(4.9)
DVサバイバー	131(91.6)	2(1.4)	1(0.7)	2(1.4)	0(0)	0(0)	7(4.9)

### (3) 各行為に対する暴力観

40行為に対する各対象者の評価に対して、「完全に暴力である」に5、「やや暴力である」に4、「どちらでもない」を3、「あまり暴力とは思わない」に2、「全く暴力ではない」に1として得点化し、全体及び男女別の平均値および標準偏差を表4に示した。

40行為ごとに男女の差異について検討するため、*t*検定を行ったところ、「身体的行為」に対する暴力観については、5%水準で有意差がある行為は認められなかった。また、「精神的行為」に対する暴力観については、「30.異性と一緒に行ったり、話したりすると嫉妬する」(*t*=-2.38, *P*<.05)において5%水準で有意差が認められ、女性の方が男性よりも暴力的な行為として捉えていた。「経済的行為」に対する暴力観については、「34.デートなどでいつもお金を相手に払わせる」(*t*=-2.34, *P*<.05)、「35.お金を貢がせる」(*t*=-3.34, *P*<.05)、「36.バイクや部活・サークル等をやめさせる」(*t*=-2.17, *P*<.05)、「37.借りたお金を返さない」(*t*=-3.32, *P*<.05)のすべての行為において、5%水準で有意差が認められ、女性の方が男性よりも暴力的な行為として捉えていた。「性的行為」に対する暴力観においても、「38.相手が望まないのに、無理やり性交渉をする」(*t*=-2.28, *P*<.05)、「39.避妊しない」(*t*=-3.30, *P*<.01)、「40.性交渉に応じないと不機嫌になる」(*t*=-2.65, *P*<.01)の3項目すべての行為において、5%水準で有意差が認められ、女性の方が男性よりも暴力的な行為として捉えていた。

表4 各行為に対する暴力観

種類	NO	項目	全体		男性		女性		t検定
			平均	SD	平均	SD	平均	SD	
身体的	1	身体を押し倒す	3.84	1.02	4.02	1.02	3.69	1.00	
	2	平手で顔を殴る	4.70	0.66	4.74	0.51	4.68	0.77	
	3	拳(グー)で顔を殴る	4.88	0.53	4.86	0.53	4.90	0.53	
	4	物を使って身体を殴る	4.88	0.48	4.86	0.43	4.90	0.53	
	5	身体を足で蹴る	4.73	0.59	4.77	0.49	4.69	0.65	
	6	髪の毛を引っ張る	4.58	0.76	4.69	0.64	4.48	0.84	
	7	身体を引きずり回す	4.85	0.52	4.82	0.50	4.87	0.55	
	8	物を投げつける	4.69	0.65	4.69	0.64	4.69	0.67	
	9	刃物で身体を傷つける	4.90	0.50	4.91	0.42	4.90	0.55	
	10	タバコの火を押しつける	4.92	0.45	4.92	0.37	4.92	0.51	
精神的	11	机や壁などを殴る・蹴る	4.22	0.92	4.12	0.99	4.30	0.84	
	12	大声で怒鳴りつける	4.01	0.86	4.00	0.88	4.03	0.84	
	13	目の前で物をたたき壊す	4.29	0.89	4.23	0.95	4.34	0.84	
	14	汚いことばでのしる	4.48	0.71	4.46	0.69	4.49	0.74	
	15	凶器を見せる	4.72	0.67	4.66	0.69	4.77	0.65	
	16	土下座させて謝らせる	4.27	0.84	4.38	0.78	4.18	0.88	
	17	人前で恥をかかせる	4.23	0.93	4.32	0.85	4.14	1.00	
	18	意に沿わないと無視する	3.85	0.97	3.92	0.97	3.79	0.98	
	19	意に沿わないとこらむ	3.90	0.99	3.98	0.96	3.83	1.02	
	20	相手の意志とは関係なく、何でも勝手に決める	3.71	1.08	3.88	1.08	3.57	1.07	
	21	好みの髪型を指定する	2.49	0.98	2.62	1.04	2.39	0.92	
	22	好みの衣服を指定する	2.50	0.98	2.58	0.98	2.43	0.98	
	23	無断で相手の携帯のメールや着信履歴を見る	3.38	1.10	3.42	1.17	3.35	1.05	
	24	無断で相手の携帯のメアドや電話番号を消す	3.89	1.18	3.82	1.33	3.96	1.04	
	25	同性の友人との付き合いを制限させる	3.68	1.12	3.58	1.21	3.75	1.04	
	26	異性の友人との付き合いを制限させる	3.37	1.15	3.35	1.28	3.38	1.04	
	27	いつも行き先を告げさせたり、報告させたりする	3.28	1.10	3.11	1.09	3.43	1.09	
	28	日に何回もメールや電話をする	2.42	1.11	2.26	1.15	2.55	1.07	
	29	どこに行くにも相手に付いていく	3.12	1.15	2.97	1.15	3.25	1.14	
	30	異性と一緒に行ったり、話したりすると嫉妬する	2.71	1.10	2.48	1.19	2.91	0.98	*
	31	別れるなら死んでやると言う	3.87	1.16	3.71	1.26	4.00	1.05	
	32	相手の家族を否定する	4.04	1.06	3.94	1.20	4.12	0.93	
	33	相手を否定したり、相手の意見を認めない	3.84	1.08	3.69	1.24	3.96	0.91	
経済的	34	デートなどで、いつもお金を相手に払わせる	3.67	1.15	3.42	1.32	3.88	0.93	*
	35	お金を貢がせる	4.08	1.17	3.72	1.35	4.38	0.89	*
	36	バイトや部活・サークル等をやめさせる	4.20	1.01	4.00	1.21	4.38	0.76	*
	37	借りたお金を返さない	4.15	1.12	3.82	1.32	4.44	0.82	*
性的	38	相手が望まないのに、無理矢理性交渉する	4.53	0.89	4.34	1.09	4.69	0.63	*
	39	避妊しない	4.42	0.92	4.14	1.04	4.65	0.74	**
	40	性交渉に応じないと不機嫌になる	4.24	0.98	4.00	1.13	4.44	0.79	**

\*(P<.05) \*\*\*(P<.01)

(4) 各行為を「相手に行使する頻度」について

40行為に対する各対象者の評価に対して、「毎日のようにする」を5、「かなりする」を4、「時々する」を3、「めったにしない」を2、「全くしない」を1として得点化し、全体及び男女別の平均値および標準偏差を表5に示した。

40行為について、行使する頻度の平均値を見ると、「30.異性と一緒に行ったり、話したりすると嫉妬する」(2.44)、「28.日に何回もメールや電話をする」(2.29)の2項目においてのみ評価点が

2点台であり、残りのすべての行為については、評価点が1点台であった。

行為ごとに男女の差異を見るためにt検定を行ったところ、「身体的行為」については、「1.身体を押し倒す」(t=3.81, P<.01)の1行為において、5%水準で有意差が認められ、男性の方が女

表5 各行為を相手に行使する頻度

種類	NO	項目	全体		男性		女性		t検定
			平均	SD	平均	SD	平均	SD	
身体的	1	身体を押し倒す	1.38	0.76	1.65	0.96	1.16	0.43	**
	2	平手で顔を殴る	1.20	0.52	1.18	0.56	1.21	0.50	
	3	拳(グー)で顔を殴る	1.07	0.42	1.14	0.61	1.01	0.11	
	4	物を使って身体を殴る	1.10	0.42	1.14	0.53	1.06	0.30	
	5	身体を足で蹴る	1.14	0.53	1.17	0.63	1.12	0.43	
	6	髪の毛を引っ張る	1.13	0.46	1.20	0.59	1.06	0.30	
	7	身体を引きずり回す	1.08	0.44	1.17	0.63	1.01	0.11	
	8	物を投げつける	1.15	0.46	1.17	0.55	1.13	0.38	
	9	刃物で身体を傷つける	1.04	0.29	1.09	0.42	1.00	0.00	
	10	タバコの火を押しつける	1.05	0.34	1.11	0.50	1.00	0.00	
精神的	11	机や壁などを殴る・蹴る	1.30	0.72	1.52	0.95	1.12	0.36	**
	12	大声で怒鳴りつける	1.43	0.74	1.48	0.87	1.39	0.61	
	13	目の前で物をたたき壊す	1.18	0.54	1.34	0.73	1.05	0.22	**
	14	汚いことばでのしる	1.27	0.62	1.38	0.72	1.18	0.51	
	15	凶器を見せる	1.05	0.30	1.11	0.44	1.00	0.00	
	16	土下座させて謝らせる	1.09	0.41	1.14	0.53	1.05	0.28	
	17	人前で恥をかかせる	1.13	0.52	1.20	0.67	1.08	0.35	
	18	意に沿わないと無視する	1.49	0.75	1.51	0.79	1.48	0.72	
	19	意に沿わないとこらむ	1.42	0.78	1.46	0.87	1.39	0.71	
	20	相手の意志とは関係なく、何でも勝手に決める	1.35	0.69	1.46	0.83	1.26	0.52	
	21	好みの髪型を指定する	1.86	0.97	1.76	0.96	1.94	0.98	
	22	好みの衣服を指定する	1.74	0.90	1.75	0.92	1.73	0.90	
	23	無断で相手の携帯のメールや着信履歴を見る	1.36	0.76	1.43	0.84	1.31	0.69	
	24	無断で相手の携帯のメアドや電話番号を消す	1.14	0.47	1.24	0.64	1.05	0.22	*
	25	同性の友人との付き合いを制限させる	1.17	0.49	1.30	0.64	1.06	0.30	**
	26	異性の友人との付き合いを制限させる	1.61	0.93	1.67	0.95	1.57	0.91	
	27	いつも行き先を告げさせたり、報告させたりする	1.53	0.88	1.65	0.86	1.43	0.88	
	28	日に何回もメールや電話をする	2.29	1.21	2.32	1.27	2.26	1.16	
	29	どこに行くにも相手に付いていく	1.50	0.84	1.52	0.82	1.48	0.87	
	30	異性と一緒に行ったり、話したりすると嫉妬する	2.44	1.24	2.40	1.23	2.47	1.25	
	31	別れるなら死んでやると言う	1.17	0.56	1.33	0.78	1.04	0.19	**
32	相手の家族を否定する	1.14	0.47	1.25	0.65	1.04	0.19	**	
33	相手を否定したり、相手の意見を認めない	1.29	0.66	1.41	0.84	1.19	0.46		
経済的	34	デートなどで、いつもお金を相手に払わせる	1.32	0.68	1.44	0.80	1.22	0.55	
	35	お金を貢がせる	1.17	0.56	1.32	0.76	1.05	0.28	**
	36	バイトや部活・サークル等をやめさせる	1.11	0.50	1.25	0.72	1.00	0.00	**
	37	借りたお金を返さない	1.16	0.54	1.33	0.74	1.03	0.23	**
性的	38	相手が望まないのに、無理矢理性交渉する	1.14	0.49	1.30	0.69	1.01	0.11	**
	39	避妊しない	1.19	0.63	1.40	0.89	1.01	0.11	**
	40	性交渉に応じないと不機嫌になる	1.21	0.61	1.44	0.84	1.01	0.11	**

\*(P<.05) \*\*\*(P<.01)

性よりも行使する頻度は高かった。「精神的暴力」については、「11.机や壁などを殴る・蹴る」( $t=3.24, P<.01$ )、「13.目の前で物をたたき壊す」( $t=3.03, P<.01$ )、「24.無断で相手の携帯のメールアドレスや電話番号を消す」( $t=2.20, P<.05$ )、「25.同性の友人との付き合いを制限させる」( $t=2.71, P<.01$ )、「31.別れるなら死んでやると言う」( $t=1.67, P<.01$ )、「32.相手の家族を否定する」( $t=2.55, P<.01$ )の6行為において5%水準で有意差が認められ、いずれの行為についても、男性の方が女性よりも行使する頻度が高かった。「経済的行為」については、「35.お金を貢がせる」( $t=2.64, P<.01$ )、「36.バイクや部活・サークル等をやめさせる」( $t=2.81, P<.01$ )、「37.借りたお金を返さない」( $t=3.17, P<.01$ )の3行為において、5%水準で有意差が認められ、いずれも男性の方が、女性よりも行使する頻度が高かった。「性的行為」については、「38.相手が望まないのに、無理やり性交渉をする」( $t=3.30, P<.01$ )、「39.避妊しない」( $t=3.40, P<.01$ )、「40.性交渉に応じないと不機嫌になる」( $t=4.06, P<.01$ )のすべての3行為において5%水準で有意差が認められ、いずれの行為についても、男性の方が女性よりも行使する頻度が高かった。

#### (5) 各行為を「相手から受ける頻度」について

40行為に対する各対象者の評価に対して、「毎日のようにされる」を5、「かなりされる」を4、「時々される」を3、「めったにされない」を2、「全くされない」を1として得点化し、全体及び男女別の結果を表6に示した。

40行為について、相手から受ける頻度の平均値を見ると、「28.日に何回もメールや電話をする」(2.47)、「30.異性と一緒に行ったり、話したりすると嫉妬する」(2.24)、の2項目においてのみ評価点が2点台であり、残りのすべての行為については、評価点が1点台であった。

行為ごとに男女の差異を見るために $t$ 検定を行ったところ、「身体的行為」については、「2.平手で顔を殴る」( $t=2.11, P<.05$ )、「3.拳(ゲー)で顔を殴る」( $t=2.18, P<.05$ )、「4.物を使って身体を殴る」( $t=2.06, P<.05$ )の3行為において5%水準で有意差が認められ、男性の方が女性よりも上記の行為を受ける頻度が高かった。「精神的暴力」については、「13.目の前で物をたたき壊す」( $t=2.49, P<.05$ )、「14.汚いことばでののしる」( $t=2.28, P<.05$ )、「16.土下座させて謝らせる」( $t=2.39, P<.05$ )、「17.人前で恥をかかせる」( $t=2.10, P<.05$ )、「24.無断で相手の携帯のメールアドレスや電話番号を消す」( $t=2.42, P<.05$ )、「25.同性の友人との付き合いを制限させる」( $t=2.35, P<.05$ )、「32.相手の家族を否定する」( $t=2.21, P<.05$ )の7行為において5%水準で有意差が認められ、いずれの行為についても、男性の方が女性よりも上記の行為を受ける頻度が高かった。「経済的行為」については、「34.デートなど、いつもお金を相手に払わせる」( $t=2.20, P<.05$ )、「36.バイクや部活・サークル等をやめさせる」( $t=3.04, P<.01$ )、「37.借りたお金を返さない」( $t=2.62, P<.05$ )の3行為において5%水準で有意差が認められ、いずれも男性の方が、女性よりも上記の行為を受ける頻度が高かった。「性的行為」については、5%水準で有意差のある行為は認められなかった。

#### (6) 恋人関係や他の対人関係に関する考え方

20項目に対する各対象者の評価に対し、「非常にそう思う」を5、「ややそう思う」を4、「どちらでもない」を3、「あまりそう思わない」を2、「全くそう思わない」を1として得点化し、全体及び男女別の平均値および標準偏差を表7に示した。

項目ごとに男女の差異を見るために $t$ 検定を行ったところ、「1.恋人のことは、親・兄弟よりも優先すべきだ」( $t=2.86, P<.01$ )、「2.恋人同志なら、なおさら、男らしさ・女らしさを示すべきだ」( $t=2.97, P<.01$ )、「3.恋人のためなら自分の将来を犠牲にすることもあり得る」( $t=2.43, P<.05$ )、「16.ほとんどの人は相談事には親身になってくれるだろう」( $t=-2.29, P<.05$ )、の4項目において

表6 各行為を相手から受ける頻度

種類	NO	項目	全体		男性		女性		t検定
			平均	SD	平均	SD	平均	SD	
身体的	1	身体を押し倒す	1.40	0.70	1.40	0.73	1.39	0.67	
	2	平手で顔を殴る	1.19	0.56	1.30	0.73	1.09	0.33	*
	3	拳(グー)で顔を殴る	1.08	0.43	1.17	0.64	1.00	0.00	*
	4	物を使って身体を殴る	1.12	0.49	1.22	0.68	1.04	0.19	*
	5	身体を足で蹴る	1.11	0.46	1.19	0.64	1.04	0.19	
	6	髪の毛を引っ張る	1.13	0.52	1.16	0.63	1.10	0.42	
	7	身体を引きずり回す	1.08	0.43	1.16	0.63	1.01	0.11	
	8	物を投げつける	1.11	0.47	1.19	0.64	1.05	0.22	
	9	刃物で身体を傷つける	1.06	0.36	1.13	0.52	1.00	0.00	
	10	タバコの火を押しつける	1.06	0.42	1.14	0.62	1.00	0.00	
精神的	11	机や壁などを殴る・蹴る	1.21	0.56	1.24	0.61	1.19	0.51	
	12	大声で怒鳴りつける	1.31	0.67	1.38	0.79	1.26	0.55	
	13	目の前で物をたたき壊す	1.11	0.46	1.22	0.66	1.01	0.11	*
	14	汚いことばでのしる	1.24	0.62	1.38	0.79	1.13	0.41	*
	15	凶器を見せる	1.06	0.32	1.13	0.46	1.01	0.11	
	16	土下座させて謝らせる	1.14	0.53	1.27	0.75	1.04	0.19	*
	17	人前で恥をかかせる	1.13	0.52	1.24	0.73	1.04	0.19	*
	18	意に沿わないと無視する	1.54	0.90	1.62	0.97	1.47	0.84	
	19	意に沿わないとこらむ	1.44	0.88	1.54	0.96	1.36	0.81	
	20	相手の意志とは関係なく、何でも勝手に決める	1.49	0.84	1.60	0.89	1.40	0.78	
	21	好みの髪型を指定する	1.74	0.91	1.58	0.84	1.87	0.95	
	22	好みの衣服を指定する	1.71	0.90	1.61	0.86	1.78	0.94	
	23	無断で相手の携帯のメールや着信履歴を見る	1.59	1.01	1.76	1.15	1.45	0.85	
	24	無断で相手の携帯のメールアドレスや電話番号を消す	1.25	0.69	1.42	0.92	1.12	0.40	*
	25	同性の友人との付き合いを制限させる	1.31	0.68	1.47	0.88	1.18	0.42	*
	26	異性の友人との付き合いを制限させる	1.87	1.14	1.90	1.21	1.84	1.09	
	27	いつも行き先を告げさせたり、報告させたりする	1.65	1.03	1.68	0.99	1.64	1.07	
	28	日に何回もメールや電話をする	2.47	1.37	2.40	1.48	2.53	1.29	
	29	どこに行くにも相手に付いていく	1.44	0.83	1.52	0.82	1.38	0.83	
	30	異性と一緒こいたり、話したりすると嫉妬する	2.24	1.27	2.23	1.29	2.26	1.26	
	31	別れるなら死んでやろうと言う	1.22	0.64	1.32	0.65	1.14	0.62	
	32	相手の家族を否定する	1.14	0.52	1.26	0.68	1.05	0.32	*
	33	相手を否定したり、相手の意見を認めない	1.24	0.56	1.27	0.61	1.22	0.53	
経済的	34	デートなどで、いつもお金を相手に払わせる	1.35	0.83	1.52	0.90	1.21	0.75	*
	35	お金を貢がせる	1.15	0.48	1.23	0.56	1.09	0.40	
	36	バイトや部活・サークル等をやめさせる	1.12	0.44	1.26	0.63	1.01	0.11	**
	37	借りたお金を返さない	1.17	0.55	1.31	0.69	1.05	0.36	*
性的	38	相手が望まないのに、無理矢理性交渉する	1.22	0.64	1.24	0.59	1.21	0.68	
	39	避妊しない	1.23	0.75	1.31	0.80	1.17	0.71	
	40	性交渉に応じないと不機嫌になる	1.37	0.89	1.37	0.79	1.36	0.97	

\*(P<0.05)   \*\*(P<0.01)

5%水準で有意差が認められ、「1.恋人のことは、親・兄弟よりも優先すべきだ」、「2.恋人同志なら、なおさら、男らしさ・女らしさを示すべきだ」、「3.恋人のためなら自分の将来を犠牲にすることもあり得る」については、男性の方が女性よりも「そう思う」と捉えていた。また、「16.ほ



表7 恋人関係や他の対人関係に関する考え方

NO	項目	全体	SD	男性	SD	女性	SD	t検定
1	恋人のことは、親・兄弟よりも優先すべきだ	2.73	0.96	2.98	1.06	2.52	0.82	**
2	恋人同士なら、なおさら、男らしさ・女らしさを示すべきだ	2.65	1.04	2.92	1.09	2.42	0.94	**
3	恋人のためなら自分の将来を犠牲にすることもあり得る	2.20	1.08	2.44	1.17	2.00	0.97	*
4	肉体関係を結ぶことは自分を全て受入れてくれた証である	2.65	1.14	2.84	1.10	2.49	1.15	
5	恋人との関係は、当事者同士の問題で他人がとやかく言うものではない	3.43	1.00	3.52	1.08	3.35	0.93	
6	付き合いと決めたら、1年以上付き合いのは当然だろう	2.74	1.17	2.89	1.27	2.62	1.06	
7	恋人なら、自分の望み通りに変わってくれるだろう	1.99	0.96	2.06	1.02	1.92	0.91	
8	恋人の考えていることやすることは、大体予測できるだろう	2.79	1.15	2.75	1.23	2.82	1.08	
9	恋人なら、自分の考えていることがわかってくれるだろう	2.76	1.13	2.83	1.20	2.70	1.06	
10	恋人なら、自分を困らせるような面倒なことはないだろう	2.22	0.97	2.08	1.07	2.34	0.88	
11	恋人なら、相手を束縛しても、構わないだろう	1.96	1.00	1.92	1.06	2.00	0.96	
12	多くの異性は自分のことを心から好きになってくれるだろう	2.03	0.97	2.08	1.04	1.99	0.91	
13	自分は周囲の人から愛されて可愛がってもらえるだろう	2.21	1.02	2.14	1.02	2.27	1.02	
14	多くの同性は自分を認めてくれて、理解してくれるだろう	2.63	1.03	2.54	1.04	2.70	1.01	
15	将来、多くの人ととの出会いの中で成長していけるだろう	3.93	0.99	3.81	1.14	4.03	0.84	
16	ほとんどの人は相談事には親身になってくれるだろう	3.25	1.04	3.03	1.11	3.43	0.95	*
17	自分が一生懸命努力すれば誰かが評価してくれるだろう	3.77	1.09	3.61	1.20	3.90	0.97	
18	積極的に自分が働きかければ誰かが耳を貸してくれる	3.76	0.95	3.63	1.12	3.87	0.77	
19	ほとんどの人は基本的に善良で親切であるだろう	3.40	0.99	3.22	1.16	3.55	0.80	
20	ほとんどの人は正直で、まじめに生活をしているだろう	3.03	0.96	2.94	1.08	3.10	0.84	

\*(P&lt;.05) \*\*\*(P&lt;.01)

表8 相談機関の周知の有無

相談機関	男性 (人)	女性 (人)	計
知っている	8 (12.3)	24 (32.0)	32 (22.4)
知らない	53 (81.5)	53 (67.9)	106 (74.1)
未回答	4 (6.2)	1 (1.2)	5 (3.5)

「ほとんどの人は相談事には親身になってくれるだろう」は、女性の方が男性よりも「そう思う」と捉えていた。

#### (7) dating violence に関する相談機関の周知の有無

DV 被害者に対する相談支援機関においても、dating violence について相談できることを周知しているかについてその頻度を表8に示した。「知っている」と回答した対象者は、32名 (22.3%, 男8、女24) であり、男女で比較すると、女性の方が3倍程度多かった。また、「知らない」と回答した対象者は、106名 (74.1%, 男53、女53) であり、7割を超える対象者が知らなかった。

## 4 考察

### (1) 特定異性との付き合いの状況

本調査では、小・中・高・大学を通して、これまで特定異性と付き合い経験のある人が104名 (72.7%) であり、調査対象者の約7割が、これまで特定異性との付き合いを経験していた。

小・中・高・大学ごとに特定異性との付き合いの経験を比較すると、小学校から中学校になると、12名 (8.4%) から75名 (52.4%) と6倍程度増えており、中学生に大きな変化があることがうかがえた。現在、DVの予防教育の対象として取り上げられやすい高校を見てみると、83名 (58.0%) が特定異性との付き合いの経験があり、約6割となっていることが明らかになった。大学については、20名 (14.0%) であったが、これは、調査の時期が大学1年生の4月ということもあり、大学において特定の異性との付き合いはまだ始まっていないためと推測された。

今回、中学校において約5割の調査対象者が、特定の異性との付き合いを経験していることから、今後は、DV予防教育の対象者として、中学生も含めて検討する必要があることが示唆された。

#### (2) DVに関する事項の認識とそれを知るに至ったきっかけ

「DV」という用語については、雑誌やテレビで触れる以外に、学校教育を通して知るに至った調査対象者が48名(33.6%)いたことから、学校教育の中でも、なんらかの形でDVについて扱っていることがわかった。ただし、DV防止法については、「全く聞いたことがない」が69名(48.3%)、次いで「雑誌やテレビで見た程度」が42名(29.4%)であったことや、また、「デートDV」については、116名(81.1%)が「全く聞いたことがない」ことから、今後、学校教育の中で取り上げる場合、DVやデートDVに関する概要だけではなく、同時に関連する法律の紹介やその法律が適用されたケース、また、若者の付き合いの中にも潜んでいる暴力の怖さ等についても扱うことが、一つの課題になると考えられた。

#### (3) 40行為に対する暴力観

「身体的暴力」、「精神的暴力」、「経済的暴力」、「性的暴力」ごとに男女間で有意差がある行為を見ると、有意差があった全ての行為において、男性よりも女性の方が「暴力的」と捉えていた。特に「経済的暴力」と「性的暴力」において有意差を示す行為が顕著であり、金銭にまつわる行為や性的な行為では、男女間の暴力観に違いがあり、女性がより暴力として認識していることが示唆された。

#### (4) 各行為を「相手に行使する頻度」と「相手から受ける頻度」

各行為を「相手に行使する頻度」の平均値並びに「相手から受ける頻度」の平均値を見てみると、いずれも1点台を示す行為が多かった。このことは、今回の調査対象者が、相手に対して攻撃的に振舞ったり、逆に相手から不当な行為を受けず、比較的健康的な付き合い方をしてきたことが示唆された。

「相手に行使する頻度」において男女間で有意差があった行為、また、「相手から受ける頻度」において男女間で優位差があった行為をみると、全て男性の方が女性よりも頻度が高かった。DV被害者は圧倒的に女性が多いことを考えると、特に、「相手から受ける頻度」において男性の方が女性よりも頻度が高かったことは、当初考えていた結果とは逆になるもので、より注視が必要となるものであった。

「相手に行使する頻度」の中で、男性の方が有意に高く、「相手から受ける頻度」では有意差がなかった行為は、「1.身体を押し倒す」、「11.机や壁などを殴る・蹴る」、「35.お金を貢がせる」、「38.相手が望まないのに、無理やり性交渉する」、「39.避妊しない」、「40.性交渉に応じないと不機嫌になる」の6行為であり、特に性的暴力の全ての行為が含まれていたことが特徴的であった。

また、「相手から受ける頻度」の中で、男性の方が有意に高く、「相手に行使する頻度」では有意差がなかった行為は、「2.平手で顔を殴る」、「4.物を使って身体を殴る」、「14.汚いことばでのしる」、「16.土下座させて謝らせる」、「17.人前で恥をかかせる」、「34.デートなどで、いつもお金を相手に払わせる」の6行為であった。この中では、身体的暴力の2行為が含まれていたことが特徴的であり、男性がこれまで考えられてきた以上に身体的暴力を受けている可能性が示唆された。また、土下座や人前で恥をかかせるなど、プライドを傷つける行為が含まれていたことが特徴的であった。

「相手に行使する頻度」と「相手から受ける頻度」の両方において、共通して男性の方が有意

に高かった行為は、「13.目の前で物をたたき壊す」、「24.無断で相手の携帯のメアドや番号を消す」、「25.同性の友人との付き合いを制限させる」、「32.相手の家族を否定する」、「36.バイトや部活・サークル等をやめさせる」、「37.借りたお金を返さない」の8行為であった。

#### (5) 恋人関係や他の対人関係、生活観に関する考え方

恋人との関係については、男性の方が女性よりも、特定の異性について、自分の家族や自分自身よりも優先的に考えていることが示唆された。また、相手との関係を構築して行く上で、男性の方が女性よりも、いわゆる「男らしさ」、「女らしさ」をより重視しながら関係を作っていることも示唆された。

恋人以外の他者との関係については、女性の方が男性よりも、第三者は親身になって相談に乗ってくれると捉えており、このことが、女性の方が、より相談場面に向きやすい一因になっていると推察された。

#### (6) dating violence に関する相談機関の周知の有無について

DV被害者に対する支援を行っている機関において、dating violence への支援も行っていることは、約75%の調査対象者が「知らない」と回答していた。今後、若年層に対する予防教育を進めていく中では、法律的な知識とともに実際の相談窓口についても啓発していく必要があると考えられた。

## 5 まとめ

本研究では、大学生を対象に、これまでの付き合いの状況やDVやdating violenceに関する認識、またDVやdating violenceとなりうる行為に関する実態、異性や他者に対する考え方など検討することができた。

本研究では、「相手に行使する頻度」と「相手から受ける頻度」を評価する際、実際に付き合い合った経験のない調査対象者は、その行為をどの程度行使するか（受けるか）を想定して回答してもらった。今後は、より多くの調査対象者に実施することで、実際の付き合い経験のある者の実態について検討する必要があると考えられた。また、「相手に行使する頻度」と「相手から受ける頻度」の両方において、男女間で有意差があった行為は、いずれも男性の方が有意に高かったことについても、今後さらに検討を加える必要があると考えられた。また、本研究は、各行為を行使するまたは受ける頻度をもとに検討したが、今後は、特定の異性と対等な関係を築けているかなど、両者の関係性についても注目し検討していきたい。

### 引用文献

小西聖子：ドメスティック・バイオレンス. 白水社, 2001

畑下博世, 上間美穂, 但馬直子, 菱田知代, 鈴木ひとみ, 辻岡芳美：“デートDV” 文献レビュー. 保健師ジャーナル, 61 (11) :1077-1083, 2005.

Anderson ET, Brykczynski KA, Hatashita H : A cross-cultural study of family violence: voices of women and their helpers in Japan and the US. Unpublished date. 2001

山口のり子：デートDV防止プログラムの実施者向けワークブック. 梨の木舎, 2003

内閣府男女共同参画局：配偶者からの暴力に関する調査. 2003

東京都生活文化局：『女性に対する暴力』調査報告書.1998

熊本県男女共同参画・パートナーシップ推進課：若年層を対象にした「デートDV」に関する調査報告

書.2008

横浜市市民活力推進局男女共同参画推進課：デートDVに関する意識・実態調査報告書.2008

神戸市男女共同参画センター：神戸市における高校生の男女共同参画と男女間の暴力に関するアンケート調査報告書. 2008

李 璟媛, 塚本宣子：デイトイングDVに関する研究 -大学生の実態調査に基づいて -.宮崎大学教育文化学紀要 第13号:1-18, 2005

NPO 法人DV防止ながさき：デートDVを知っていますか, 2005

付記

当研究の一部は、日本発達心理学会第19回大会において発表された。また、当研究の実施及び論文の作成にあたり、ご指導・助言をいただいた鈴木賢男文教大学生生活科学研究所客員研究員には、ここに記して心より感謝申し上げます。